

企業主導型保育事業における巡回指導の状況について

(令和3年度結果)

目的

○公益財団法人児童育成協会において、企業主導型保育施設における保育内容等に関して、巡回指導員による助言・指導を実施するための巡回指導を行い、保育の質の向上及び児童の安全等の確保を図る。

実施状況

○巡回指導の実施施設（実施施設512施設／うち訪問462施設、リモート50施設）

新型コロナウイルス感染症の影響により7月より実施。

令和3年度の実施方針については、約450施設を念頭に対象施設から462施設を選定し、いずれも訪問により実施。更に、新型コロナの影響で今後訪問実施が困難となる可能性を見据え、対象施設から別途50施設を追加選定し、リモート（電話）により実施。

※第12回企業主導型保育事業点検・評価委員会（R4.3.25開催）で報告された訪問実施数（450施設）は、R4.3.23時点の件数であり、本報告における訪問実施数（462施設）は当該時点以降の実施件数（12施設）を含めたもの。

○対象施設 運営開始から1年半以内の施設、巡回指導を希望する施設、保育内容に課題があるものと認められる施設等。

		実施施設数
令和3年度	訪問指導	462施設
	リモート	50施設
	計	512施設
令和2年度	訪問指導	24施設
	リモート	119施設
	計	143施設

令和3年度主な指導・助言内容

	具体的な指導・助言内容
令和3年度	<ul style="list-style-type: none">・ 保育所保育指針を読み込み、乳幼児の3つの視点等について理解を深めるよう助言した。また、子どもが主体的に活動できるような環境作りを助言した。・ 食物アレルギーの対応方法を研修し、情報を共有するよう助言した。・ 献立表に季節の食材の紹介を付け加える等、食育について助言した。・ 保護者との連携の必要性を説明し、オンライン懇談会等を提案した。・ 保育施設における虐待予防、早期発見の機能等について助言した。・ 自己評価の重要性を説明し、ガイドラインの活用や研修受講等について助言した。
令和2年度	<ul style="list-style-type: none">・ 子どもが清潔かつ安全で、安心感をもって生活できる環境を整えること。・ 感染症、アレルギー対応、虐待、事故防止等に関する定期的なマニュアルの見直しや職員への継続的な周知が重要。必要な時に適切な行動が取れるよう普段から職員間でマニュアル確認を行うよう助言した。・ 職員が子どもに対する児童虐待の兆候を少しでも早く発見できるよう、職員間のコミュニケーションを高めること、フローチャートの確認や虐待予防チェックシート等の活用を促した。・ 必ずしも法令上は消防計画など災害発生時の対応体制および避難への備えを整備する必要はないとしても、子どもと介護施設の利用者は異なるので策定することが望ましいと助言した。